

災害に備えて



風水害や土砂災害、地震など多様化する災害に備えるため、すみやかな情報提供や社会全体での支援と連携等に尽力し、災害に強い地域・大分を目指します。

防 災

地域への防災支援

災害対応支援

大規模災害時の応援等に関する協定

地方公共団体の対応能力を超えるような大規模災害の場合には、災害発生直後の自治体は被災者の対応に追われ、被害状況把握などが非常に困難となります。そのため事前に国、自治体の双方で災害対応の仕組みをルール化しておくことで、円滑な支援が可能になります。

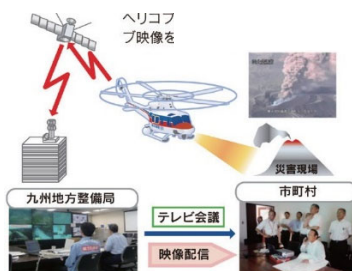
九州地方整備局では管内市町村と応援に関する協定を締結しています。

- ① 所管施設の被害状況の把握
- ② 情報連絡網の構築
- ③ 現地情報連絡員（リエゾン）の派遣
- ④ 災害応急措置
- ⑤ その他必要と認められる事項

[情報提供・共有]
[技術支援]
[災害対策用機械の派遣]

市町村が管理する施設であってもその復旧支援が行えるよう市町村と協定を締結し
迅速な支援が行える体制を構築

情報提供・共有



ヘリコプター等による災害初期のライブ映像を自治体に情報提供します。

技術支援



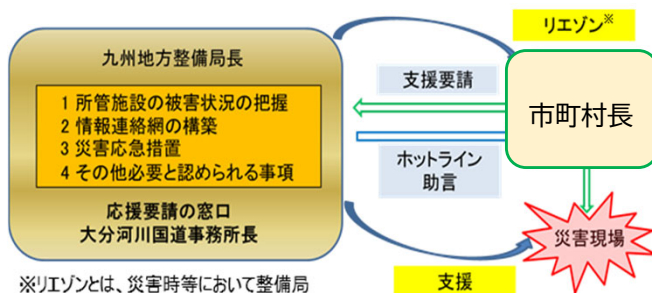
大規模な自然災害に際して、被災状況の把握や被災地の早期復旧のための技術的支援を迅速に実施します。

災害対策用機械の派遣



国土交通省が保有する災害対策用機械（防災ヘリコプター、排水ポンプ車、照明車、衛星通信車、遠隔操縦バックホウ等）を必要に応じ派遣します。

大分河川国道事務所の担当市町村



※リエゾンとは、災害時等において整備局職員を県・市町村へ派遣し相互の連絡調整を行い、迅速かつ的確な災害対策および災害支援を実施する仕組みです。

○大分河川国道事務所担当市町村(13市町村)

大分市、由布市、国東市、日田市、姫島村、豊後高田市、日出町、杵築市、九重町、宇佐市、玖珠町、別府市※、中津市※
(※他事務所と重複で担当)

○山国川河川事務所担当市町村(1市)

中津市

○佐伯河川国道事務所担当市町村(5市)

豊後大野市、竹田市、臼杵市、津久見市、佐伯市

○別府港湾・空港整備事務所担当市町村(1市)

別府市

防災情報の共有化等による連携強化

地方自治体等の関係機関や地域住民との間で防災情報等を共有し、連携体制の強化や地域の防災力向上に努めています。



大分地区地域防災連絡会

市町村への大規模災害時における支援に関して、体制の確認や情報の共有などを日頃から積極的に行うことにより、円滑な支援活動が行えるよう管内13の首長等をメンバーとして平成25年8月に設置しました。

大分県冬期道路交通確保対策調整会議・災害時交通マネジメント検討会

国道10号・210号における、積雪・凍結による交通障害などの雪害対応や、災害時の復旧活動等に万全を期すため、国、県、沿線自治体、警察、消防、NEXCO等の関係機関が対面、Web会議で集まり、情報共有、連携方策の協議、意見交換などを行っています。



洪水予報連絡会、水防連絡会の開催

水害に対する危機管理体制の強化を図るため、毎年、出水期前に防災関係機関(国、県、市、報道、消防団等)が集まり、防災に関する諸問題について各機関の情報を共有しています。



重要水防箇所等の共同点検

堤防決壊等において、住民の避難をスムーズに行うために、堤防の危険箇所を再確認し、水防活動の対応方法、避難場所、主な資機材の備蓄場所等の確認を行うために防災関係者が一同に介して重要水防箇所の共同点検を実施しています。



河川情報モニター

河川に関する情報について、情報を受ける側の視点で点検をいただくとともに、地域住民の方への河川防災情報、防災意識の普及啓発を通じて、地域の防災力向上を図るため、平成20年9月より、大分川・大野川の河川情報モニターを設置しています。



水防災意識社会 再構築ビジョン

大分川・大野川圏域大規模氾濫に関する減災対策協議会

近年、全国各地で水害が頻発、激甚化する中、平成27年9月の関東・東北豪雨による被害を受け、国土交通省では「施設では防ぎきれない大洪水は発生するもの」との考えに立ち、社会全体でこれに備えるため、ハード・ソフト一体となった「水防災意識社会再構築ビジョン」の取組を進めています。

大分川・大野川圏域では、大分市、竹田市、豊後大野市、由布市と大分県、国が共同して、「大分川・大野川圏域大規模氾濫に関する減災対策協議会」を設立し、ハード対策・ソフト対策を一体的・計画的に推進するため「減災のための取り組み方針」をとりまとめ、取り組みを推進しています。

減災のための目標【大分川・大野川(下流部)】

■5年間で達成すべき目標 産業・経済・人口の集積エリアを大規模水害から守るため「地域における総合的な防災力の向上」を目指す。

■上記目標達成に向けた3本柱の取り組み

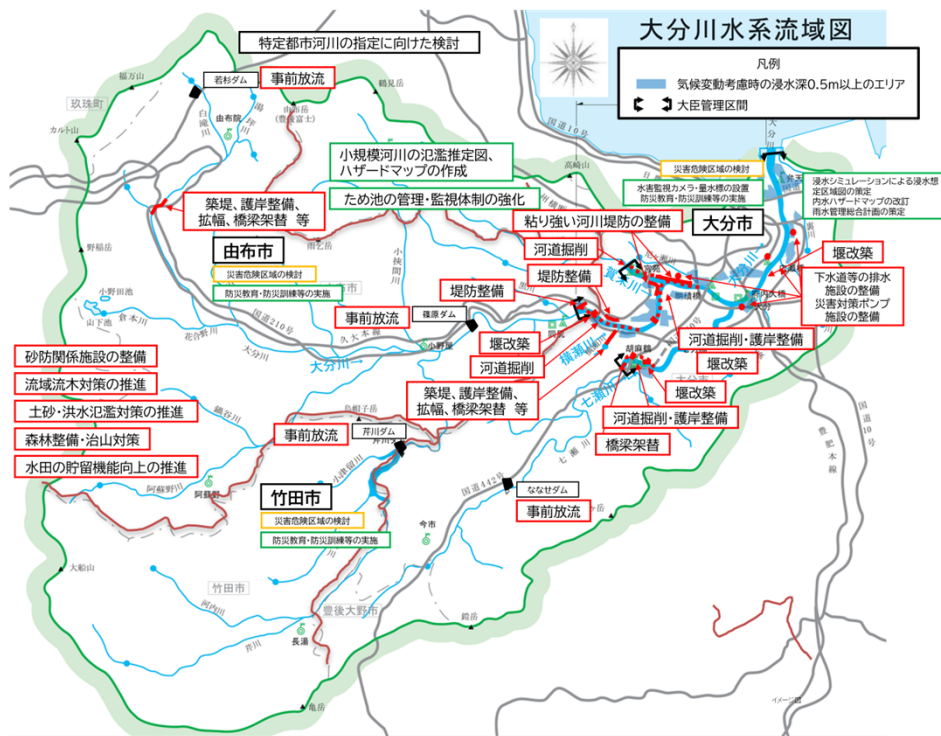
1. 浸水被害を想定した、地域単位での防災教育・避難訓練・水防活動の取組み
2. 自治体の早期判断を助け、避難行動を住民自らが行えるよう、きめ細やかな情報の提供
3. 洪水に対する社会経済活動の安定性を高め、一刻も早い回復を可能とする機能の整備と排水対策の取組み



大分川・大野川水系流域治水協議会

「大分川・大野川水系流域治水協議会」は、令和元年東日本台風をはじめとした近年の激甚な水害や気候変動による水害の激甚化・頻発化に備えるため、「流域治水」を計画的に推進するための協議・情報共有を行うことを目的として設立されています。令和2年度にハード・ソフト一体の事前防災対策を加速させるため「大分川・大野川水系流域治水プロジェクト」を策定。令和6年3月には気候変動の影響による降水量の増大に対して、早期に防災・減災を実現するため「流域治水プロジェクト2.0」として更新しました。

大分川水系流域治水プロジェクト【位置図】



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。
※流域治水プロジェクト2.0で新たに追加した対策については、今後河川整備基本方針及び河川整備計画の過程でより具体的な対策内容を検討する。

■氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・河道掘削、護岸整備、堤防整備、堰改築、橋梁架替、粘り強い河川堤防の整備、既存施設の有効活用検討等
- ・校庭・公園・公共施設等の貯留施設整備検討
- ・住宅・事業所等における雨水貯留施設設置補助の推進・強化
- ・ため池の補強・有効活用
- ・下水道等の排水施設の整備
- ・下水道事業における雨水流出抑制施設の検討
- ・利水ダム等4ダムにおける事前放流等の実施、体制構築（関係者：国、大分県、由布市、九州電力（株）など）
- ・水田の貯留機能向上の推進
- ・砂防関係施設の整備
- ・流域治水対策の推進
- ・土砂・洪水氾濫対策の推進
- ・森林整備・治山対策

※今後、関係機関と連携し対策検討

■被害対象を減少させるための対策

- ・災害危険区域の検討
- ・浄水場や水資源再生センター・公共施設の耐水化等による機能確保
- ・立地適正化計画の作成・見直し（防災指針の作成等）
- ・災害リスクを考慮した居住誘導区域の検討
- ・土砂災害警戒区域等の指定による土砂災害リスク情報の充実

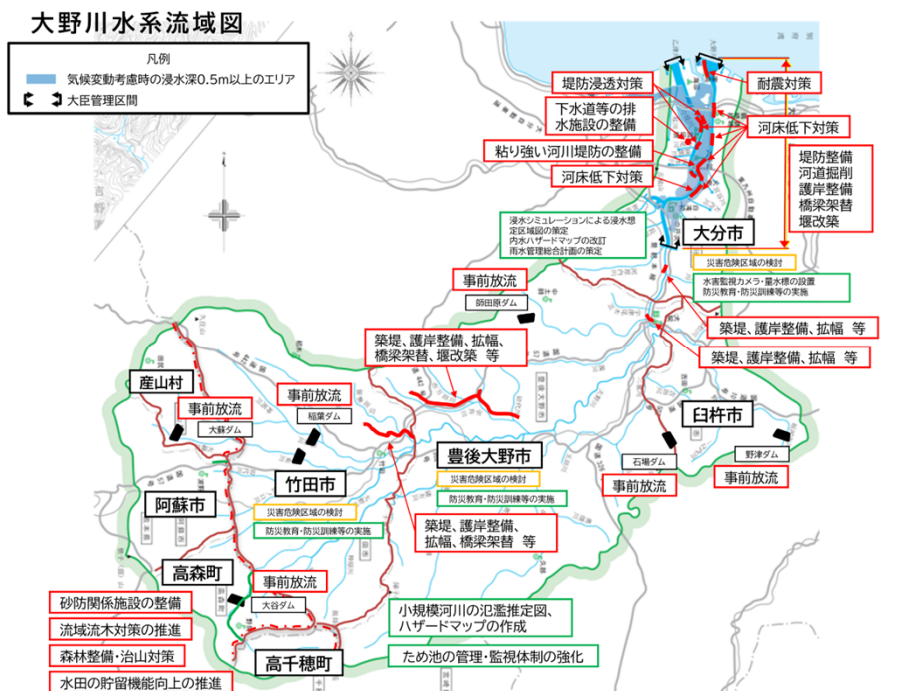
※今後、関係機関と連携し対策検討

■被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- 国・県・市町村・気象台
- ・水害監視カメラ・量水標の設置
- ・防災情報伝達の多量化的検討
- ・水防意識を高める防災教育、防災訓練等
- 県・市町村
- ・小規模河川の氾濫推定図、ハザードマップの作成
- ・マイ・タイムラインの作成支援
- ・自主防災組織単位毎のタイムラインの作成支援
- 国
- ・内外水一体リスクマップの作成
- ・洪水予測の高度化
- ・河川管理施設の遠隔化
- ・三次元管内図の整備
- ・報道機関への水位及び画像情報の提供
- ・危機管理型水位計・簡易型河川監視カメラの公開
- 大分県
- ・ため池の管理・監視体制の強化（水位計・監視カメラの設置）
- 大分市
- ・浸水シミュレーションによる浸水想定区域図の策定
- ・内水ハザードマップの改訂
- ・雨水管理総合計画の策定
- 由布市
- ・防災行政無線、防災ラジオの有効活用
- 気象台
- ・防災気象情報の周知・啓発

※今後、関係機関と連携し対策検討

大野川水系流域治水プロジェクト【位置図】



※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。
※流域治水プロジェクト2.0で新たに追加した対策については、今後河川整備基本方針及び河川整備計画の過程でより具体的な対策内容を検討する。

■氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・河道掘削、護岸整備、堤防整備、堰改築、橋梁架替、粘り強い河川堤防の整備、洪水調節施設の検討等
- ・校庭・公園・公共施設等の貯留施設整備検討
- ・住宅・事業所等における雨水貯留施設設置補助の推進・強化
- ・ため池の補強・有効活用
- ・下水道等の排水施設の整備
- ・下水道事業における雨水流出抑制施設の検討
- ・利水ダム等6ダムにおける事前放流等の実施、体制構築（関係者：大分県、大分市、土地改良区など）
- ・水田の貯留機能向上の推進
- ・砂防関係施設の整備
- ・流域治水対策の推進
- ・森林整備・治山対策
- ・洪水調節施設等の検討

※今後、関係機関と連携し対策検討

■被害対象を減少させるための対策

- ・災害危険区域の検討
- ・浄水場や水資源再生センター・公共施設の耐水化等による機能確保
- ・立地適正化計画の作成・見直し（防災指針の作成等）
- ・災害リスクを考慮した居住誘導区域の検討
- ・土砂災害警戒区域等の指定による土砂災害リスク情報の充実

※今後、関係機関と連携し対策検討

■被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- 国・県・市町村・気象台
- ・水害監視カメラ・量水標の設置
- ・防災情報伝達の多量化的検討
- ・水防意識を高める防災教育、防災訓練等
- 県・市町村
- ・小規模河川の氾濫推定図、ハザードマップの作成
- ・マイ・タイムラインの作成支援
- ・自主防災組織単位毎のタイムラインの作成支援
- 国
- ・内外水一体リスクマップの作成
- ・洪水予測の高度化
- ・河川管理施設の遠隔化
- ・三次元管内図の整備
- ・報道機関への水位及び画像情報の提供
- ・危機管理型水位計・簡易型河川監視カメラの公開
- 大分県
- ・ため池の管理・監視体制の強化（水位計・監視カメラの設置）
- 大分市
- ・浸水シミュレーションによる浸水想定区域図の策定
- ・内水ハザードマップの改訂
- ・雨水管理総合計画の策定
- 気象台
- ・防災気象情報の周知・啓発

※今後、関係機関と連携し対策検討

過去の被災状況

概要

河川の被災(平成29年9月台風第18号災害)

河川

平成29年9月17日(日)に鹿児島県に上陸した大型の台風第18号は、宮崎県を通過し、日向灘を進み、高知県に再上陸しました。

台風の接近に伴い、大分県、宮崎県を中心に大雨となり、大分市内でも大野川下流部等で浸水被害が発生するなど大きな影響を及ぼしました。

また、大分県津久見市では道路の陥没や土砂崩れによって道路と鉄道が被災し、甚大な被害を及ぼしました。

道路



防災



乙津川左岸毛井地区浸水状況
(H29.9.17)



大分県津久見市大岩本線被災状況調査
(H29.9.20)

地域連携



大分川右岸宮崎地区(市道下郡宮崎大通り線)浸水状況
(H29.9.17)

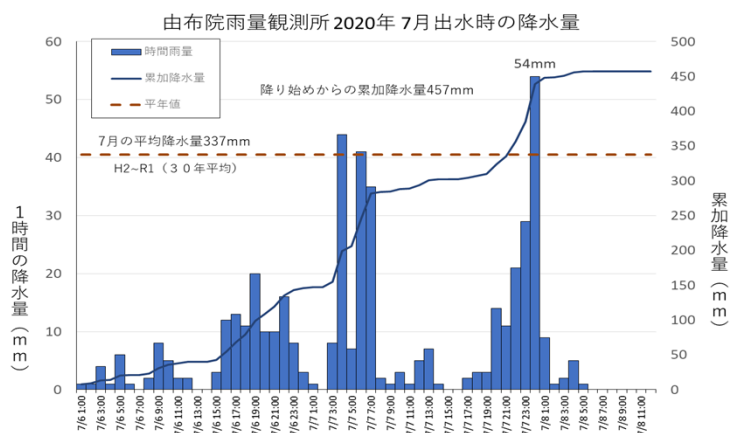
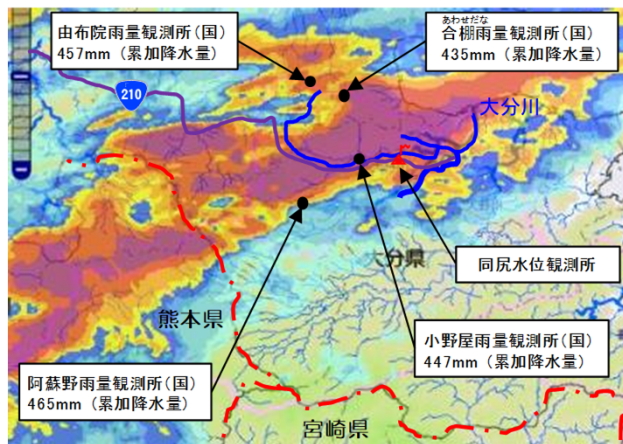


大野川右岸利光地区浸水状況
(H29.9.17)

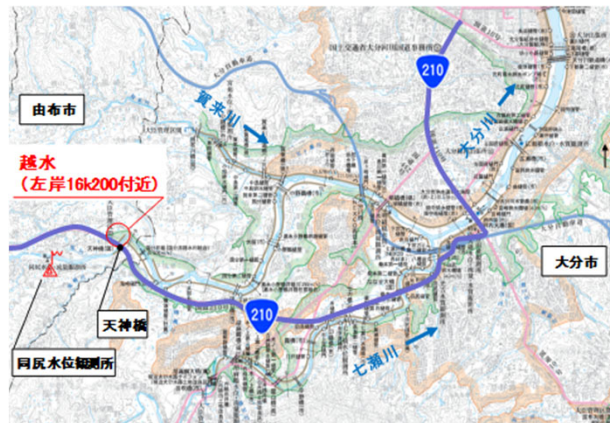
大分河川国道の歩み

河川の被災(令和2年7月豪雨)

令和2年7月豪雨では、7月7日(火)と8日(水)に連続して、線状降水帯により大分川流域は強い雨域がかかり、大分川上流の多くの雨量観測所で降り始めからの累加降水量が400mmを超える記録的な大雨を観測しました。



大分川16k200左岸(由布市挾間町下市地区)において、堤防からの越水を確認しました。



令和2年7月豪雨による塵芥や堆積土砂、堤防や排水施設の損傷等に対して緊急的な対応を進め、引き続き早期に台風期や今後の出水に備えるため樹木伐採や河道掘削を実施しました。

【豪雨後のこれまでの緊急的な対応】



流木等の撤去 (大分川明礪橋下流左岸等)



河川敷道路の土砂撤去 (大分川広瀬橋上流左岸等)

【予備費充当による今後の緊急的な対応 対策イメージ】

【整備前】(樹木伐採)



【整備後】



【整備前】(樹木伐採・土砂撤去)



【整備後】



道路の被災(令和2年7月豪雨) ※赤岩地区復旧事業

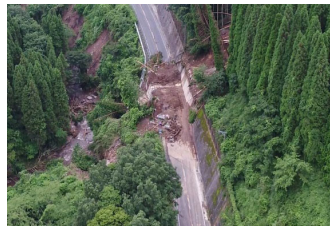
概要
令和2年7月6日(月)から7月8日(水)未明にかけ、梅雨前線の活発な活動により「線状降水帯」が形成されました。県内は7月平均降雨量の約1.6倍にあたる600mmの雨がたった2日間で降るといった記録的な大雨に見舞われました。

河川
国道210号では豪雨により法面崩壊・道路の陥没等、50箇所以上の被災を受け、一時、約50kmにわたり通行止めを実施しました。

なかでも日田市天瀬町赤岩地区では道路が崩壊、41日間にわたって全面通行止めになるなど大きな被害となりました。

令和2年8月17日から開始した終日片側交互通行は、2年6ヶ月ぶりの令和5年2月2日に終日片側交互通行の規制を解除しました。

法面崩壊(九重町野上)



道路崩壊(天瀬町赤岩)



復旧作業の状況



仮復旧後



本復旧後



防災情報の提供

ホームページによるリアルタイム提供

河川の防災情報

川の防災情報では、河川カメラ画像や水位、雨量の情報をリアルタイムで取得することができます。



道路の防災情報

大分河川国道事務所のホームページでは、事務所管内の道路情報をリアルタイムで取得可能です。



【リアルタイム道路情報】

道路情報提供システムで「通行規制」「道路気象」「レーダー雨量」「道路画像」を確認できます。



【道路ライブ映像】

大分河川国道事務所の道路監視カメラの映像について静止画にて確認することができます。
※災害等で事務所ホームページへアクセスが集中した際、ホームページの閲覧に支障が生じる場合がありますのでご了承下さい。



SNS等による防災情報の提供

X(旧Twitter)による情報の提供

大分河川国道事務所公式X(旧Twitter(@milt_oita))では、河川・道路の防災情報のほか、工事の進捗状況、地域との連携の話題等さまざまな情報をリアルタイムで提供しております。

大分河川国道事務所
X(旧Twitter)



YouTube・CATVによる河川カメラ画像の配信

▶ YouTubeによるリアルタイム配信

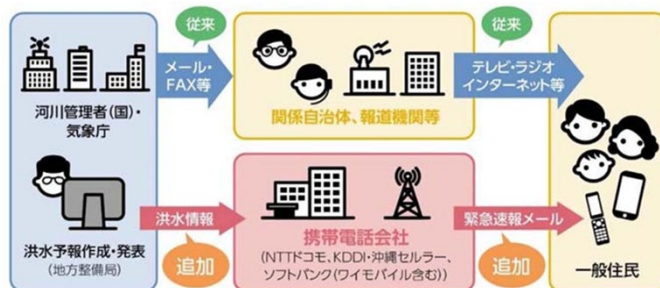


▶大分ケーブルテレコム(J:COM) ▶大分ケーブルネットワーク(OCN)にて公開



プッシュ型配信による洪水情報の提供

大分川と大野川の洪水情報を緊急速報メール(プッシュ型配信)で配信します。



※1「洪水情報」とは、指定河川洪水予報の氾濫危険情報(レベル4)及び氾濫発生情報(レベル5)の発表を契機として、住民の主体的な避難を促進するために配信する情報です。

※2「プッシュ型配信」とは、受信者側が要求しなくても発信者側から情報が配信される仕組みです。

わかりやすい河川・道路情報の表示

河川水位の危険度レベル表示や河川利用標識などの情報表示について、一般の方にも理解しやすいよう工夫しています。

川の標識のルール



川の標識がわかりやすくなるようデザインを工夫し、禁止は赤色、注意は黄色を使って色で分けます。一目でわかるように、統一した図柄を入れます。周りの景観を乱さないように、材料やデザインに配慮しています。

危険度レベルの表示



避難の基準となる水位など危険度レベルを示した水位表示板を橋脚等に設置し、川の水位をわかりやすくお知らせします。
(下段の項目を参照してください)

海拔表示シート設置



東日本大震災で甚大な被害をもたらした津波被害を踏まえ、津波被害を軽減するための対策の一つとして道路施設等に海拔情報を表示することにより、道路利用者に海拔情報を提供しています。

予報・警報

洪水予報について

大雨が降ると河川が氾濫する危険性が高くなります。このため、大分地方气象台と大分河川国道事務所では、大分川と大野川の水位危険度レベルに応じて洪水予報を発表しています。

